

『名古木里山を守る会』の紹介

かつて秦野は、「たばこ」の産地と知られ、通称「秦野葉」は水府（茨城）、国分（鹿児島）と並んで三大葉たばこの産地でした。

秦野葉は、天日乾燥で、昭和12年頃から、天候に左右されない火力乾燥が出来る「米葉」という品種が普及されました。しかし、昭和40年頃になりますと急速な都市化になり、昭和60年頃を最後に「葉たばこ」生産が終わりました。

名古木の里山は、「クヌギ」「ナラ」の蔭、落ち葉（腐葉土）等を「葉たばこ」生産に供給し、里山の歴史が「葉たばこ」生産と一緒に刻み込まれて来たと言っても過言ではないかと思えます。「葉たばこ」の生産が終わると、「クヌギ」や「ナラ」の利用も年々薄れ、近年里山の形態は、「クヌギ」「ナラ」林は20年を越える大木が多くなり、木の活性が無くなってきております。

下草は、笹竹が多くなり、「葉たばこ」生産最盛期に牛車で、落ち葉（シバカキ）をいれる竹籠や蒔きを運搬した道路（山道）の姿を見ることが出来ません。

以前は、子供達が喜ぶカブト虫やクワガタ（おっか）が沢山取れ、私達の地域では、日本そばの汁に無くてはならない「あしなが」（シメジ茸の一種）も沢山取れました。時折々の季節には、春ラン、山百合、山ツツジ等々が咲き乱れ美しい里山でした。

子供も大人も楽しめる里山を作りたいと、農家の方、定年退職をされた方、元名古木に住んでいた方、自然環境に興味お持ちの方々によって、平成14年の9月に『名古木里山を守る会』が発足致しました。現在、会員数は62名（平成23年1月現在）です。

また、市街からおいでになる方々や地域の子供達に里山体験、実習をしていただくために、『秦野市ふれあいの森づくり事業』により里山（個人の山林）4.6ha（4町6反）を整備しており、『神奈川県里地里山保全・再生及び活用の促進に関する条例』により里地（田畑）1.1ha（1町1反）を地元の地権者と一緒に援助農業をしております。

事業は、雑木林の伐採や倒木、枯木等の整理、笹竹の刈り取りの林業整備と「クヌギ」「ナラ」林の復活のための「クヌギ」「ナラ」の苗木栽培、余木を利用して、なめこ、椎茸、ヒラタケ等の茸栽培、最近ブームになっている炭小屋を利用して、竹炭、竹酢液作り。「クヌギ」「ナラ」の落ち葉で腐葉土作り、カブト虫、クワガタの幼虫を育てて、地域の子供達に配布するための昆虫の養殖、小川を利用しての「わさび」や「セリ」の栽培等を行います。また、地域の方々と懇親を深めるために「名古木里山ふれあい」レクリエーション活動を年数回開催しております。

『名古木里山を守る会』は、里地里山に興味の有る方を募集しております。また、休耕畑、山（個人山に限る）を貸していただける方も募集しております。活動は、原則毎月第1及び第3土曜日の午前9時から午後3時です。なお、会費は、年1,000円です。

問い合わせ 257-0024 秦野市名古木510番地

名古木里山を守る会 代表 関野勝政

TEL/FAX 0463-81-2129

携帯 090-1709-2303

E-Mail:ja1lju@beige.plala.or.jp